



都市経営における「ウェルビーイング」

昨年11月29日、横浜市会議員研修会が開かれでは横浜市立大学研究・産学連携推進センター特任教授の南雲武彦氏を講師にお招きし「都市経営におけるウェルビーイング」についての講演をいただきました。今号では、当日の資料を基に概略をお伝えさせていただきます。

＝ウェルビーイングとは何か？＝

皆さんは、以下の中で何を重視すれば、自分の幸福度が高まると思いますか？

- 豊かさ ●ゆとり ●楽しさ ●健康 ●安寧 ●平和 ●学び・成長 ●選択肢の多さ ●生きがい
- 夢・希望 ●愛・関係 ●周囲との調和

＝ウェルビーイングの定義・考え方＝

ウェルビーイング = 身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること。世界保健機関(WHO)では、ウェルビーイングのことを個人や社会のよい状態、健康と同じように日常生活の一要素であり、様々な状況によって決定されると紹介しています。

健康の社会的決定要因 = 個人または集団の健康状態に違いをもたらす経済的、社会的状況のこと。

ウェルビーイングの範囲 = 個人、地域コミュニティ、生活環境(都市、自然)、地球環境。

2024年の国連が発行する世界幸福度報告によると日本は51位で、1位フィンランド、2位デンマーク、3位アイスランド、23位・アメリカ、60位中国などとなっています。日本の幸福度ランキングが低いのは、人生の選択自由度、他者への寛容性、政府への信頼、市民参加やコミュニティに起因し、30歳以下の幸福度ランキングが世界73位と低く、若い世代の人生に対する満足度の低下も要因とされています。そんな中で、我が国では「経済財政運営と改革の基本方針2024」において、「人への投資」などを通じて、自由で柔軟に活躍できる社会を構築し、さらに若者が安心して結婚・出産・子育てに取り組みめるよう若年世代の所得向上や健康意識の向上を図るなどして、希望あふれるWell-beingの高い社会を目指すとしています。

＝地域幸福度(Well-Being)指標について＝

地域幸福度指標は、次の6つを目的に開発・導入されました。 ①人間中心主義を明確化。②市民の視点から数値化・可視化。③自治体が個性を磨く機会を創出。④国際的な枠組みを導入。⑤客観と主観データの両方を活用。⑥まちづくりに役立てる。

主観指標: 各自治体が集めたアンケートデータをもとに、幸福感(Well-Being)を算出したもの。時系列での比較に強い。

客観指標: 各種オープンデータ等をもとに、暮らしやすさを測定して分野間などの比較に用いています。

主観や客観指標では、地域における幸福度・生活満足度を図る4つの設問と因子群(カテゴリー)から構成されています。

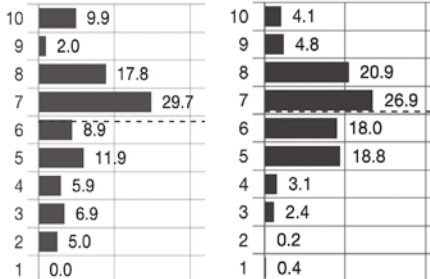
設問: ①現在、あなたはどの程度幸せですか？②現在、あなたの町内の人々は、大体においてどれくらい幸せだと思いますか？③現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？④自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う。

因子群: 【都市環境】医療・福祉、買物・飲食、住宅環境、移動・交通、子育て、地域行政など。【自然環境】自然景観、自然の恵み環境共生、自然災害。【地域】地域とのつながり、多様性・寛容性。【自分らしい生き方】雇用・所得、教育機会の豊かさ文化・芸術・健康状態など。

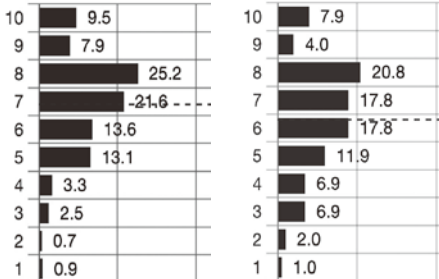
横浜市においても、こうした地域幸福度指標を活用するために横浜市と横浜市立大学が連携、またアジアスマートシティ会議では、横浜市に住む若者のWell-beingについて意見交換を行っています。

横浜市における「地域幸福度」指標。幸福度は10段階、回答数は%、点線は平均値 ※デジタル庁地域幸福度指標ダッシュボードより

横浜市全域 【幸福度】 磯子区



横浜市全域 【生活満足度】 磯子区



横浜市全域 【町内幸福度】 磯子区

